



三菱UFJフィナンシャル・グループ

平成24年度第2四半期決算ハイライト

平成24年11月14日

Quality for You

確かなクオリティを、明日へ。世界へ。

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし前提(仮定)は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。

そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Reportをはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。

<本資料における計数の定義>

連結 : 三菱UFJフィナンシャル・グループ(連結)
2行合算 : 三菱東京UFJ銀行(単体)と三菱UFJ信託銀行(単体)の単純合算

● 損益サマリー	3
● 当期純利益の概要	4
● 部門別業績概要	5
● B/Sサマリー	6
● 貸出金・預金	7
● 国内預貸金利回り	8
● 貸出資産の状況	9
● 保有有価証券の状況	10
● 欧州周縁国へのエクスポージャー	11
● 自己資本の状況	12
● 24年度業績目標／配当金予想	13
● 中期経営計画の状況	14

損益サマリー

● 業務純益

- 海外貸出収益は伸張したものの、国内預貸金収益、市場運用利息やコンシューマーファイナンス子会社収益を主因に資金利益は減少。一方、セールス&トレーディング収益や国債等債券関係損益が増加し、業務粗利益は増加
- 営業費は海外事業強化に係る経費を主因に微増
- 以上の結果、連結業務純益は小幅増加

● 与信関係費用総額

- 大口先の業績悪化を反映した格付の見直しなどにより、2行合算を中心に費用が増加

● 株式等関係損益

- 株価下落に伴う株式等償却の拡大により悪化

● 中間純利益

- 上記のほか特別損益の悪化もあり、中間純利益はモルガン・スタンレー関連会社化に伴う負ののれんを除くベースでは1,149億円減少
- 当初目標(2,900億円)は達成

〈連結P/L〉

(単位:億円)

	23年上期	24年上期	増減
1 連結業務粗利益(信託勘定償却前)	17,898	18,316	417
2 資金利益	9,078	8,762	▲ 315
3 信託報酬+役員取引等利益	5,233	5,184	▲ 48
4 特定取引利益	973	1,339	365
5 その他業務利益	2,613	3,029	415
6 うち国債等債券関係損益	2,215	2,752	536
7 営業費(▲)	9,901	10,144	242
8 連結業務純益	7,997	8,171	174
9 与信関係費用総額 ^{*1}	▲ 286	▲ 622	▲ 336
10 株式等関係損益	▲ 967	▲ 1,735	▲ 767
11 株式等償却	▲ 1,072	▲ 1,868	▲ 796
12 その他の臨時損益 ^{*2}	2,844	▲ 112	▲ 2,957
13 経常利益	9,586	5,700	▲ 3,885
14 特別損益	44	▲ 269	▲ 314
15 法人税等合計	▲ 2,093	▲ 1,947	146
16 少数株主利益	▲ 576	▲ 578	▲ 1
17 中間純利益	6,960	2,904	▲ 4,056
18 除く負ののれん	4,054	2,904	▲ 1,149

〈2行合算P/L〉

	23年上期	24年上期	増減
19 業務粗利益(信託勘定償却前)	12,169	12,578	409
20 営業費(▲)	5,884	6,083	199
21 業務純益	6,284	6,495	210
22 与信関係費用総額 ^{*1}	▲ 5	▲ 285	▲ 280
23 経常利益	4,806	3,733	▲ 1,073
24 中間純利益	3,179	2,111	▲ 1,067

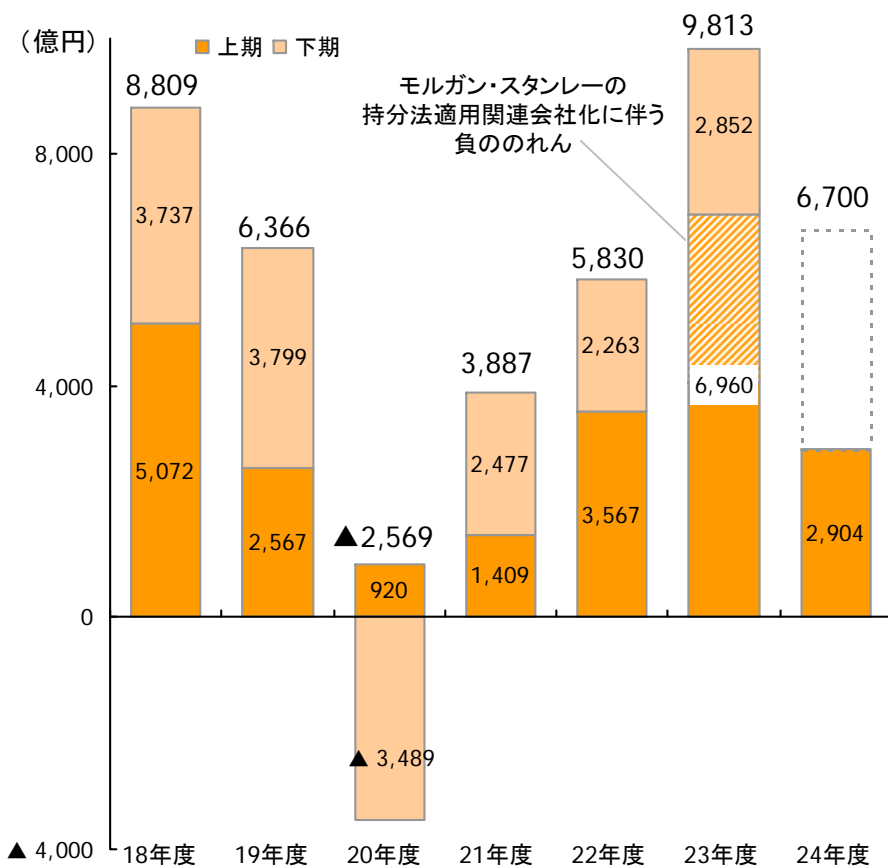
*1 与信関係費用(信託勘定) + 一般貸倒引当金繰入額 + 与信関係費用(臨時損益) + 貸倒引当金戻入益 + 偶発損失引当金戻入益(与信関連) + 償却債権取立益

*2 持分法投資損益、利息返還損失引当金繰入額を含む

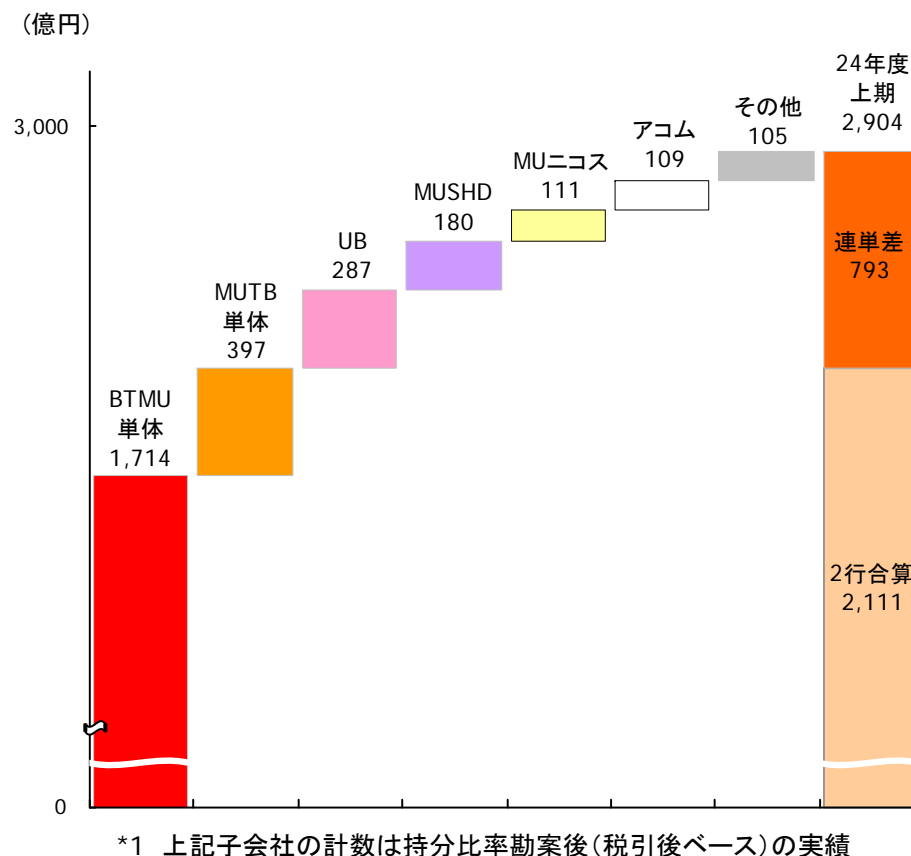
当期純利益の概要

- 前年同期比では減益となるものの、当初目標額(2,900億円)をクリア
- 前年同期に引き続き、主要業態は何れも黒字を確保

当期純利益の推移



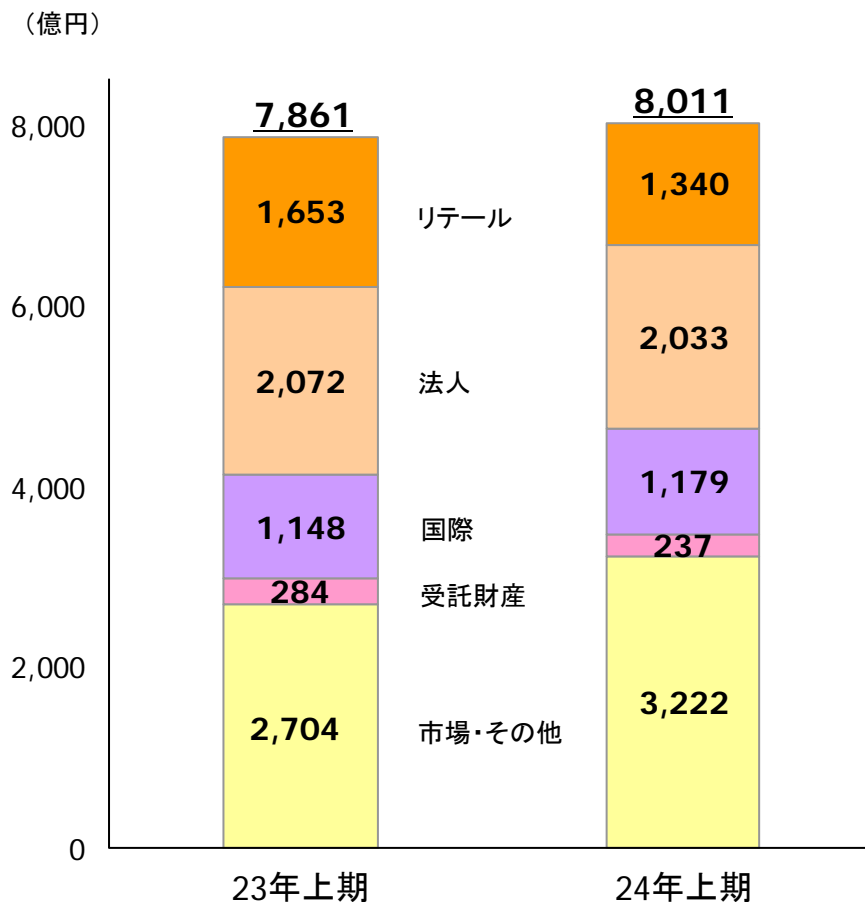
当期純利益内訳*1



部門別業績概要

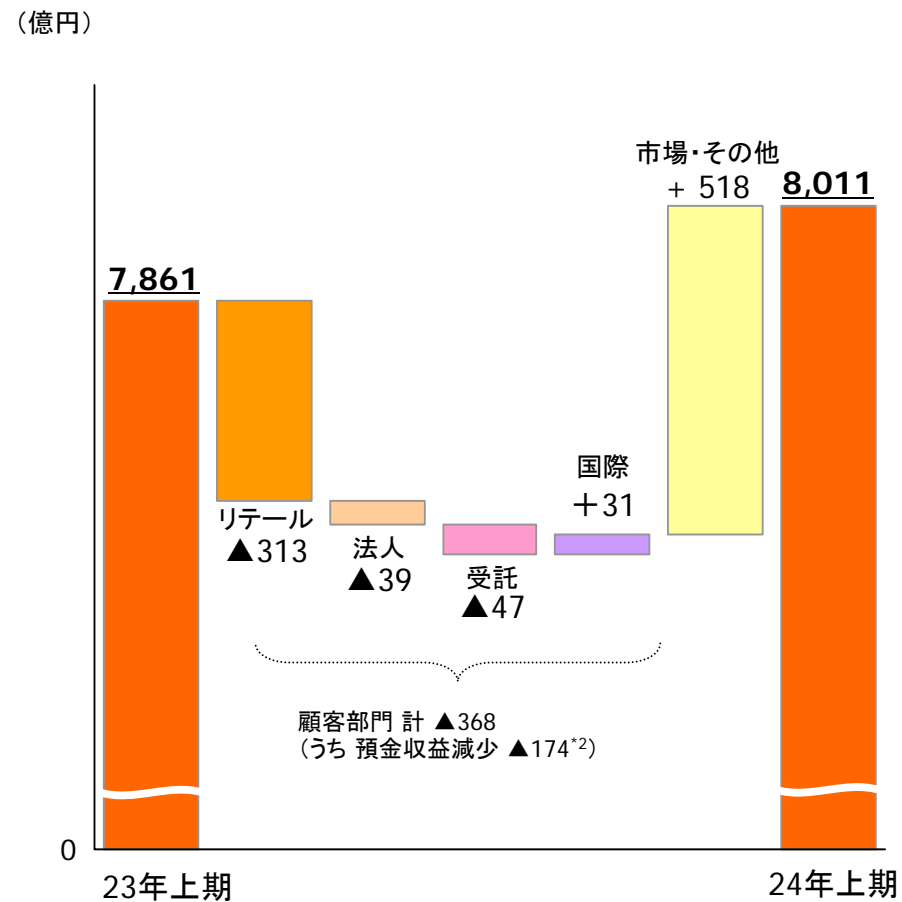
- 市況低迷もあり、国内顧客部門は減少したものの、市場部門が大きく伸張したほか、貸出関連収益を中心とする国際部門の増益により、全体では前年同期比150億円の増益

部門別営業純益*1



*1 管理ベースの連結業務純益

営業純益増減内訳



*2 預金収益(管理ベース)は単体合算ベース

(単位:億円)

●貸出金

- 国内法人貸出、海外貸出により、24年3月末比微増

●有価証券

- 国内株式のほか国債、外債も減少し、24年3月末比減少

●預金

- 引続き個人預金により、24年3月末比微増

●開示債権

- 大口先の格下げ等により、開示債権額及び同比率とも24年3月末比若干悪化

●その他有価証券評価損益

- 国内外の債券は改善した一方、株式評価益が減少し24年3月末比悪化

〈連結B/S〉	24年3月末	24年9月末	24年3月末比
1 資産の部合計	2,188,616	2,186,411	▲2,204
2 貸出金(銀行勘定+信託勘定)	846,400	848,284	1,883
3 [貸出金(銀行勘定)]	[844,926]	[846,811]	[1,884]
4 うち住宅ローン ^{*1}	168,660	166,916	▲1,743
5 うち国内法人貸出 ^{*1}	456,347	457,700	1,353
6 うち海外貸出 ^{*2}	199,471	201,491	2,020
7 有価証券(銀行勘定)	782,647	772,768	▲9,879
8 うち株式	42,165	37,247	▲4,918
9 うち国債	485,627	480,739	▲4,887
10 うち外国債券	187,720	186,719	▲1,001
11 買現先・債券レポ	78,095	81,149	3,054
12 負債の部合計	2,071,858	2,067,742	▲4,115
13 預金	1,247,892	1,250,858	2,966
14 うち個人預金(国内店)	658,443	664,811	6,367
15 売現先・債券レポ	185,647	182,268	▲3,379
16 純資産の部合計	116,757	118,669	1,911
17 金融再生法開示債権 ^{*1}	15,821	16,511	689
18 開示債権比率 ^{*1}	1.77%	1.87%	0.09%
19 その他有価証券評価損益	8,320	6,996	▲1,324

*1 2行合算+信託勘定

*2 海外支店+ユニオンバンク・コーポレーション+BTMU(中国)

● **連結貸出金残高84.8兆円**
(24/3末比+0.1兆円)

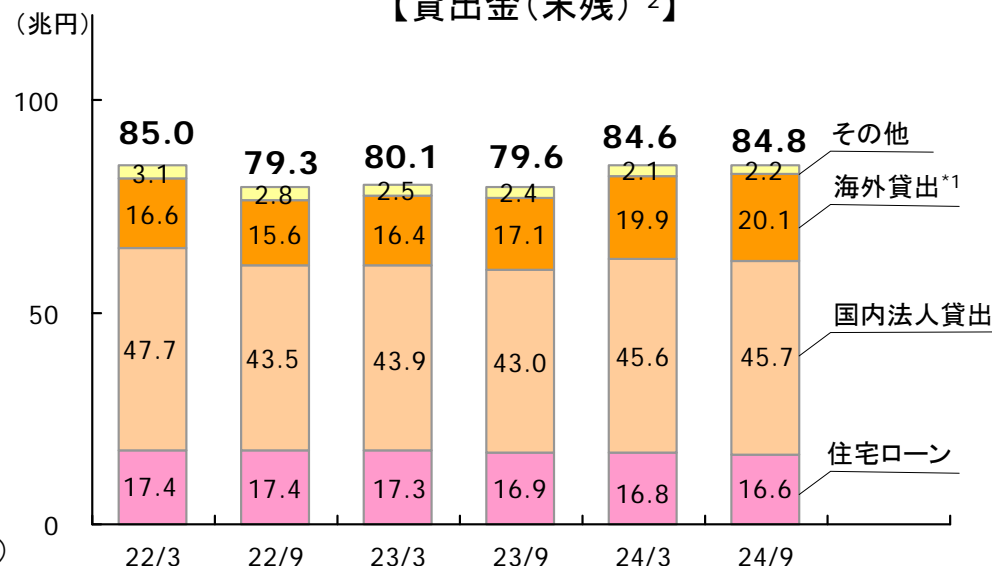
<24/3末比増減の主要因>

- 住宅ローン ▲0.1兆円
- 国内法人貸出 +0.1兆円
- 海外貸出*1 +0.2兆円
(除く為替影響) (+0.8兆円)

*1 海外支店+ユニオンバンクカル・コーポレーション+BTMU (中国)

*2 銀行勘定+信託勘定

【貸出金(末残)*2】

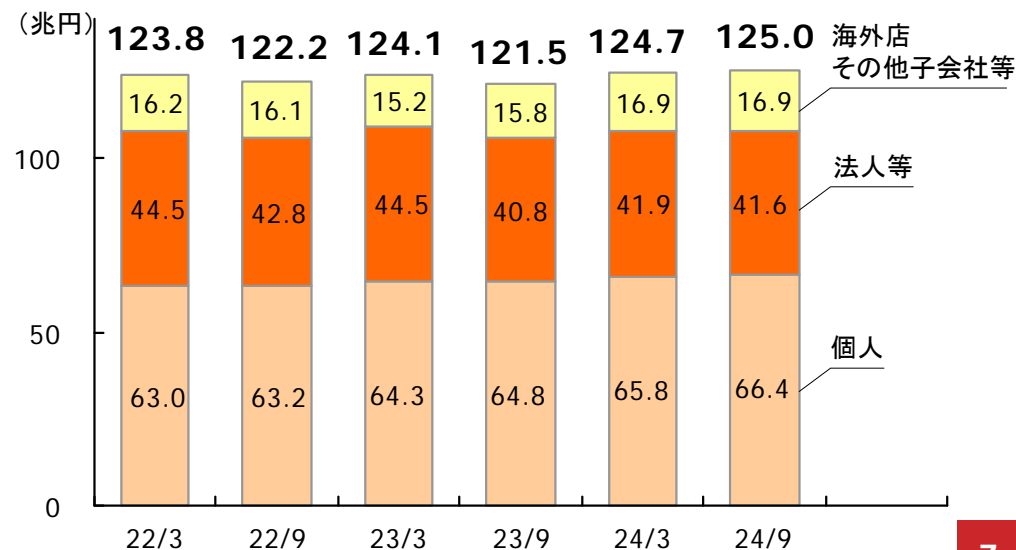


【預金(末残)】

● **連結預金残高125.0兆円**
(24/3末比+0.2兆円)

<24/3末比増減の主要因>

- 個人預金 +0.6兆円
- 法人等預金 ▲0.3兆円
- 海外店その他 ▲0.0兆円
(除く為替影響) (+0.3兆円)



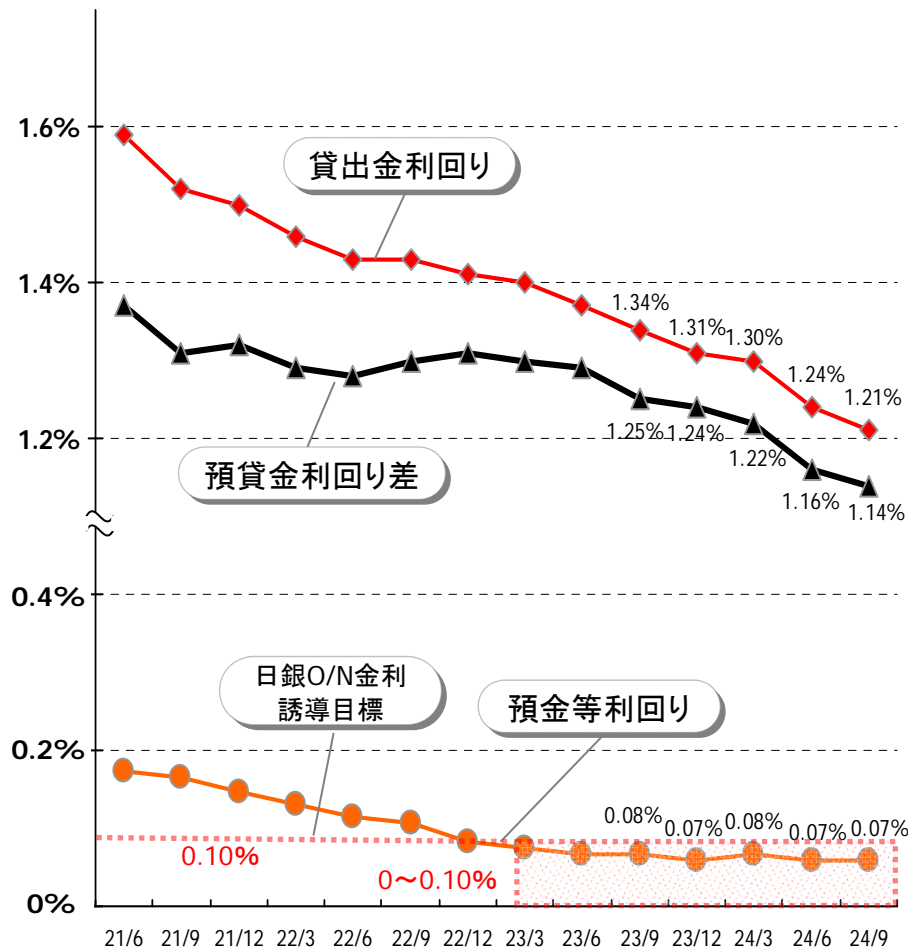
国内預貸金利回り

【2行合算】

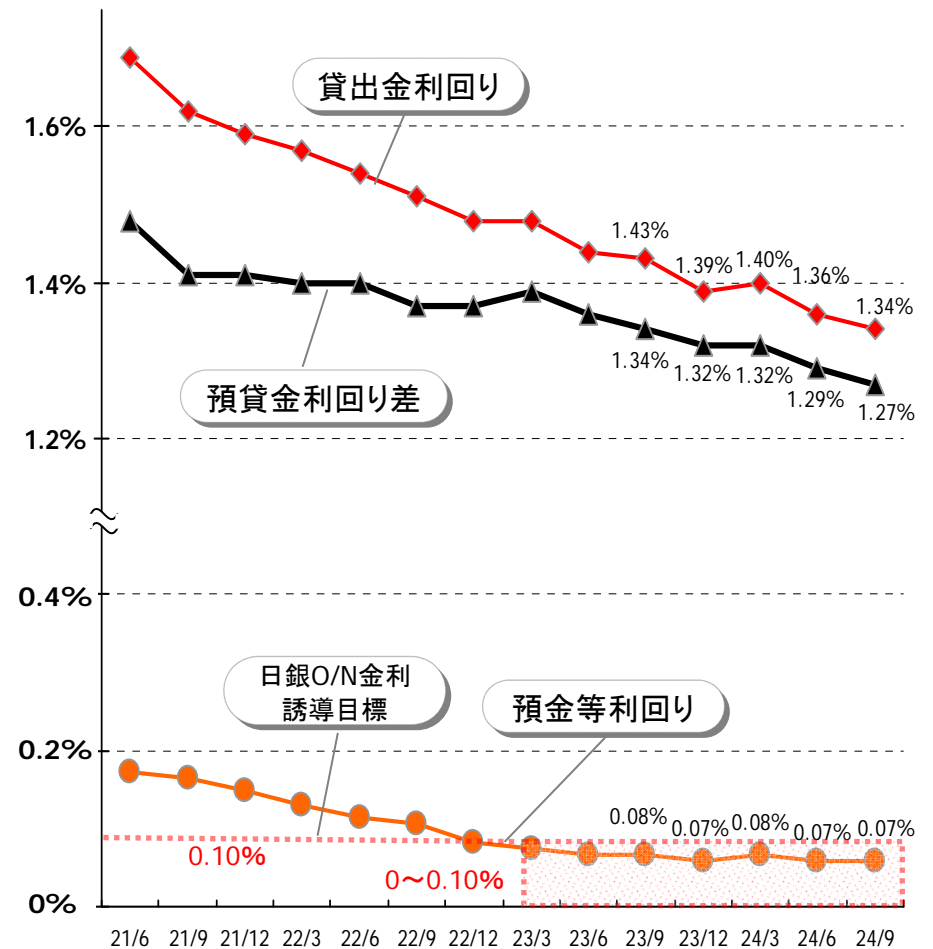


- 24年2Qの預貸金利回り差は貸出金利回りの低下を主に縮小

国内預貸金利回りの推移



国内預貸金利回りの推移(政府等貸出除き)



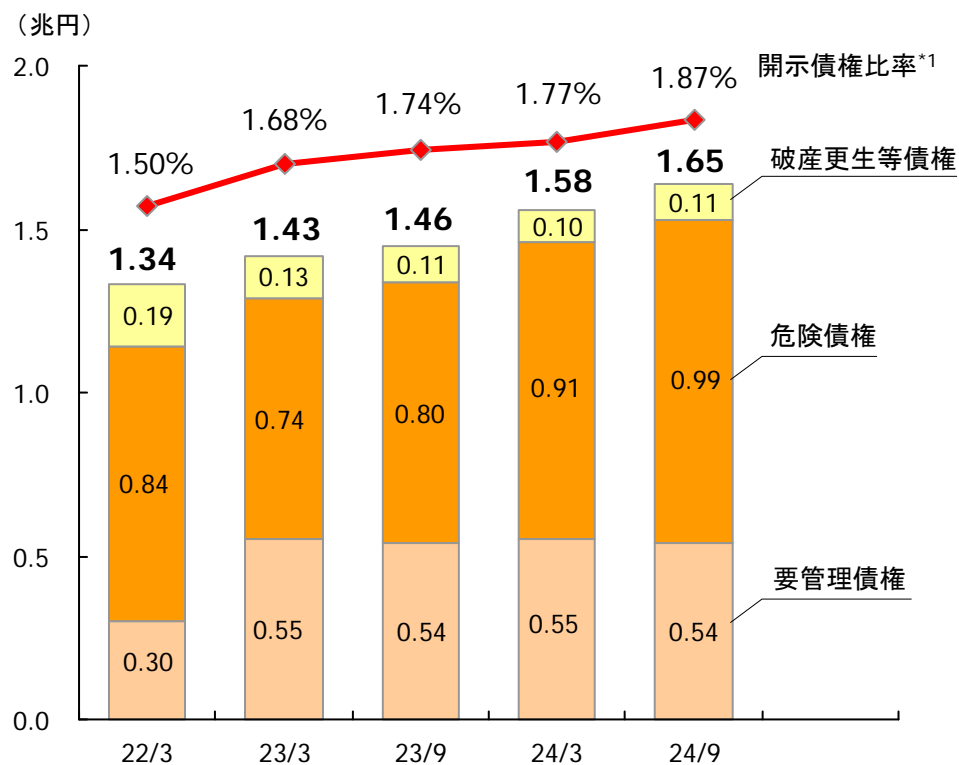
貸出資産の状況

【連結・2行合算】



- 開示債権額は危険債権増加を主因に24/3末比増加、開示債権比率は1.87%
- 与信関係費用総額は連結では前年同期比336億円増加し、622億円の費用(2行合算では285億円)

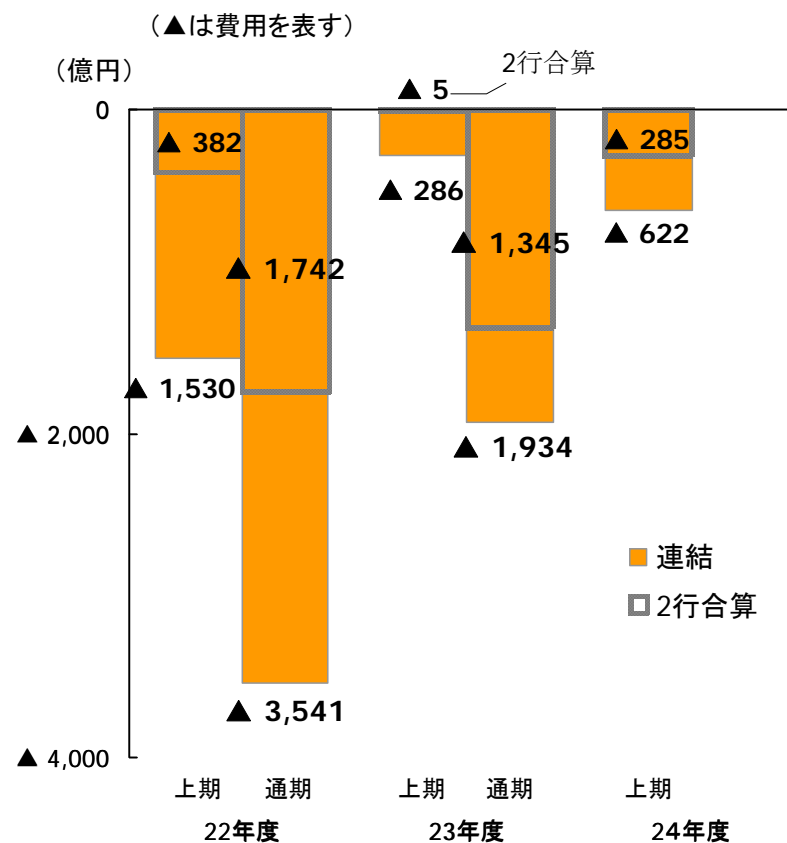
金融再生法開示債権残高(2行合算)



総与信 89.6兆円 85.0兆円 83.7兆円 88.9兆円 88.2兆円

*1 開示債権額 ÷ 総与信

与信関係費用総額



保有有価証券の状況

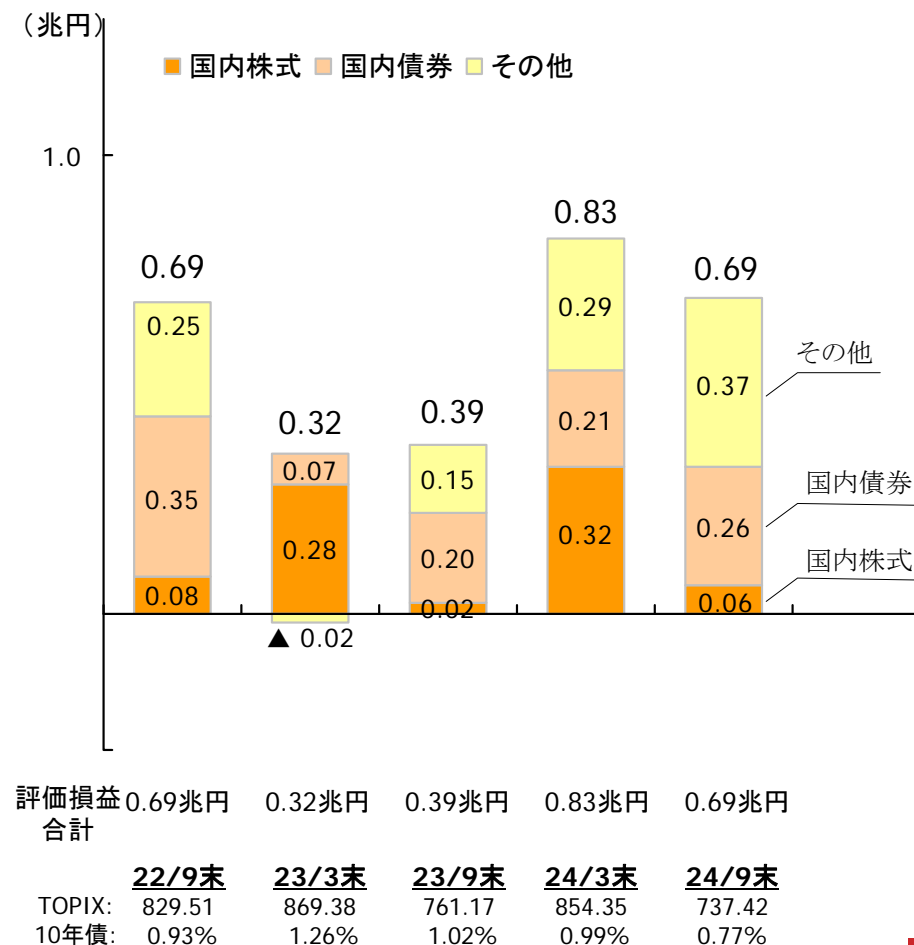
- 株式相場の下落に伴い国内外における株式の評価損益が悪化し、その他有価証券全体の評価損益は24年3月末比1,324億円悪化。一方、内外債券の評価損益は引続き増加。

その他有価証券(時価あり)の内訳

(単位:億円)

		24年9月残高		評価損益	
			24/3末比		24/3末比
1	合計	740,941	▲ 7,375	6,996	▲ 1,324
2	国内株式	28,703	▲ 4,635	615	▲ 2,601
3	国内債券	508,621	▲ 7,046	2,639	464
4	国債	475,440	▲ 4,617	2,010	458
5	その他	203,616	4,306	3,740	812
6	外国株式	1,502	▲ 200	318	▲ 183
7	外国債券	179,606	387	3,304	697
8	その他	22,507	4,120	117	298

その他有価証券評価損益の推移



欧州周縁国へのエクスポージャー



- 欧州周縁国向け実質リスクベースのエクスポージャー残高(商銀連結)は、総資産に対し限定的

24/9末エクスポージャー残高(商銀連結)

	24/3末残	24/9末残
スペイン	約58億ドル	約52億ドル
イタリア	約59億ドル	約61億ドル
アイルランド	約3億ドル	約2億ドル
ポルトガル	約6億ドル	約6億ドル
ギリシャ	約3億ドル	約2億ドル
合計	約129億ドル	約122億ドル

24/9末保有国債残高(MUFG)

	24/3末残	24/9末残
スペイン	約7億ドル	約1億ドル
イタリア	約28億ドル	約15億ドル
アイルランド	-	-
ポルトガル	0億ドル	0億ドル
ギリシャ	-	-
合計	約35億ドル	約16億ドル

エクスポージャーは限定的

●エクスポージャー残高

- ソブリン向けはゼロ
- 9割以上は一般事業法人向け与信およびストラクチャードファイナンス
- スペイン、イタリア向けエクスポージャーは電力・ガス・通信などのインフラ業種が中心
- 金融機関向け与信は限定的
- CDSヘッジ勘案後のエクスポージャー残高は約111億ドル

●保有国債残高

- ギリシャ・アイルランド国債の保有はなし
- イタリア国債の大半は満期保有目的であり、約2年で償還

自己資本の状況

(単位:億円)

●自己資本額

- 利益剰余金の増加などにより、Tier1は3,099億円増加
- 一方、劣後債の償還等により、Tier2が7,700億円減少したことなどから、自己資本は4,240億円減少

●リスクアセット

- 信用リスクが減少する一方で、オペレーショナルリスクの先進的計測手法への変更に伴うバーゼル規制上のフロア調整が加算され、全体では6,613億円増加

●自己資本比率

- 自己資本比率 : 14.30%
- Tier1比率 : 12.57%

		23年9月末	24年3月末	24年9月末	24年3月末比
1	自己資本比率	15.42%	14.91%	14.30%	▲0.60%
2	Tier1比率	13.04%	12.31%	12.57%	0.26%
3	Tier 1	104,710	105,222	108,322	3,099
4	うち資本金・資本剰余金	43,137	43,137	43,155	17
5	うち優先株式	3,900	3,900	3,900	-
6	うち利益剰余金	54,069	56,023	57,989	1,966
7	うち少数株主持分	17,211	16,916	17,075	158
8	うち優先出資証券	12,317	12,073	12,043	▲29
9	Tier 2	37,765	40,387	32,687	▲7,700
10	うち有価証券含み益	1,475	3,430	2,643	▲787
11	うち劣後債務	33,537	34,465	26,765	▲7,700
12	控除項目	▲18,628	▲18,184	▲17,824	360
13	自己資本	123,847	127,425	123,184	▲4,240
14	リスクアセット	802,769	854,565	861,179	6,613
15	信用リスク	719,649	716,720	648,827	▲67,892
16	マーケットリスク	18,519	23,800	21,911	▲1,888
17	オペレーショナルリスク	64,599	47,985	49,526	1,541
18	フロア調整	-	66,060	140,912	74,852

24年度業績目標 / 配当金予想

【連結・単体】



● 24年度の連結当期純利益目標は6,700億円で不変

【業績目標】

〔連結〕

	24年度		23年度	
	中間期 (実績)	通期	中間期 (実績)	通期 (実績)
1 経常利益	5,700億円	11,100億円	9,586億円	14,719億円
2 当期純利益	2,904億円	6,700億円	6,960億円	9,813億円
3 与信関係費用総額	▲622億円	▲1,600億円	▲286億円	▲1,934億円

〔単体〕

(三菱東京UFJ銀行)

4 実質業務純益	5,696億円	9,900億円	5,538億円	10,228億円
5 経常利益	3,264億円	6,900億円	4,165億円	7,433億円
6 当期純利益	1,714億円	4,600億円	2,719億円	4,690億円
7 与信関係費用総額	▲268億円	▲750億円	▲75億円	▲1,253億円

(三菱UFJ信託銀行)

8 実質業務純益	798億円	1,550億円	746億円	1,481億円
9 経常利益	468億円	1,100億円	641億円	1,101億円
10 当期純利益	397億円	800億円	460億円	758億円
11 与信関係費用総額	▲17億円	▲100億円	70億円	▲92億円

【配当金予想】

	24年度			23年度		
	中間配当金	期末配当金 (予想)	年間配当金 (予想)	中間配当金 (実績)	期末配当金 (実績)	年間配当金 (実績)
12 普通株式1株当たり 配当金	6円	6円	12円	6円	6円	12円

業績の概要

〈連結業績〉

(単位:億円)

	23年上期	24年上期	増減
1 業務粗利益	17,898	18,316	417
2 経費	9,901	10,144	242
3 実質業務純益	7,997	8,171	174
4 中間純利益	6,960	2,904	▲ 4,056
5 1株当たり利益(円)	48.58	19.90	▲ 28.68

〈主要指標〉

		23年上期	24年上期	26年度目標
6 経費率	連結	55.3%	55.3%	50%台後半
7	2行合算	48.3%	48.3%	50%台前半
8 連結当期純利益RORA ^{*1 *2}		0.8%台後半	0.7%程度	0.9%程度
9 連結ROE ^{*1}		9.16%	6.14%	8%程度
10 普通株式等Tier1比率 ^{*2}		8%程度	10%程度	9.5%以上

*1 23年上期はモルガン・スタンレーの持分法適用関連会社化に伴う負ののれんを除く

*2 パーゼルⅢベース、控除項目を全て控除

施策の進捗状況

● グループ事業戦略の推進

(海外戦略)

- 新興国における拠点網・業務提携拡大
- 国際・市場部門の共管拠点拡大
(シドニー、ジャカルタ、BTMUマレーシア)
- 人民元等、エマージング通貨ビジネスの強化

(協働の強化)

- 市場業務にかかる銀証協働の強化
(市場連結事業本部の設置)
- モルガン・スタンレー提携を活用したクロスボーダーM&A取引拡大
- 法人・個人一体運営拠点の拡大
- MUMSS出向者増員によるBTMUリテールマネーデスクの増強
- 戦略提携先(AMP Capital等)との共同による投資信託商品の開発

● 経営管理・基盤の強化

- 新経営ビジョンの国内外における浸透策の推進
- 欧米における持株会社の海外組織体制強化